

2014 原水爆禁止国民平和行進が

市長、議長を表敬訪問

《国民平和行進とは》

1954年、ビキニ環礁での水爆実験により犠牲になった第5福竜丸の久保山愛吉さんの「原水爆の犠牲者は私を最後にしてほしい」との言葉を受け全国で原水爆禁止運動の波が大きく高まりました。

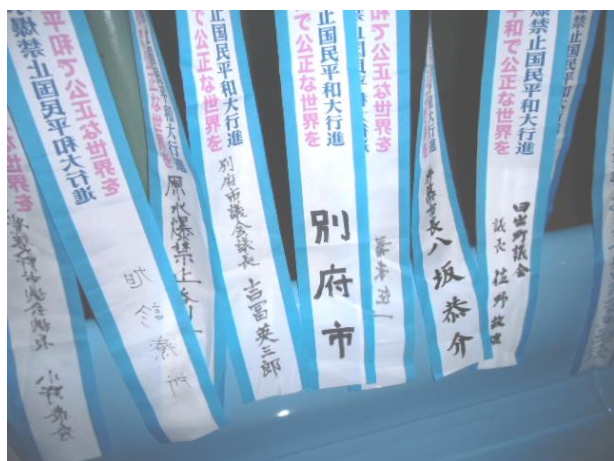
国民平和行進は、1958年6月、一人の若い僧侶(西本敦さん)が「核武装反対(原水爆禁止)」のプラカードを手に、広島から東京に向けて行進を始め、日を追うごとに参加者が増え続け、多摩川・六郷橋からは1万人以上にふくれあがった行進になったのが始まりです。

あれから56年間、今では全国11コースで、雨の日も炎天の日も休まず続けられています。九州東コースは6月27日に宮崎市を出発し、7月14・15日に別府市を通過し、8月4日に広島に到着の予定です。

7月14日、国民平和行進が別府入りしました。東別府駅で大分市から引き継ぎ、沿道でアピールしながら、別府大学駅まで行進しました。その後、宮崎から広島まで歩く通し行進者の山崎勝治さん(69)ら代表団が市役所を訪れ、市長、議長を表敬訪問しました。この席で市長、議長から世界大会会場に展示されるペナントを託されました。



今年もペナントを託されました。



昨年の世界大会で展示されたペナント
(撮影は、平野文活市議)

大分県内の被爆者は764人

被爆者手帳所有者は全国で20万1,779人。(2013年3月末)。すでに17万人以上が死亡し、現在の平均年齢は78.87歳です。

日本共産党別府市議団

げんきニュース

平野文活 (21-6749) えんど久子 (25-7630)

2014年7月18日

別府市石垣東8丁目2-31

TEL22-6576 Fax23-6529

NO, 612